



2月12日 落語となつかしの歌 よもやま話が面白いぞ！
カルチャー事業部



2月12日（水）、大阪市北区松ヶ枝町の「ふんふんさろん」にて、「歌を歌って健康づくりをモ



ットー」の、当さろん主宰筒井幹夫講師による、童謡と洒脱なよもやま話と、今をときめく「賑わい亭楽走師匠」による落語を楽しみました。



筒井講師の童謡「ドングリころころ」「まりと殿様」は、半世紀以上経っても覚えていて、久しぶりに声を出してゆっくり味わえました。



「ドングリころころ」は、2番・泣いてはドジョウをこまらせる・で余韻を残した歌でしたが、3番は、どんぐりがリスに助けられて元の山に戻り、4番は、山にはもう仲間は



おらず悲しくなって・・・(3、4番は自作?)講師の創造する展開で、なんと「まりと殿様」てんてんま州の殿様によって江戸へ旅をし、3つたと。手毬は元の子供に戻ることたのかなと。何の意味も知らずに口ずさんでいた童謡、内容の深さも改めて思いました。



だか悲しくもなる歌でした。まり・・・は、手を離れた手毬が紀年後紀州にもどり、ミカンになく、紀州名産に昇華？良かつ

「楽走師匠」の落語は、何度聞いても、その場その場の趣向があって楽しめました。小学生と親との算数のやり取り。昔悩んだ「つるかめ算」と「通行算」。親が必死になって屁理屈こねて四苦八苦。



我が身を置き換えての笑いでした。終了後、お待ちかね新装になった「プレミアホテル」でのランチを味わいました。季節の炊き込みご飯他、コーヒー付きの豪華な食事で会話を楽しみながらの1時間半。満足そうな参加者の笑顔に万歳！近場ながら、(廉価で)このような五感を満足させる催しを企画された方々に感謝感謝の1日でした。